関東第一号

重要文化的景観「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」

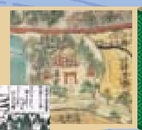
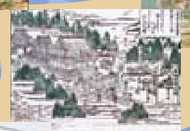
人々の生活や風土に深く結びつき、人々が営みとともに作ってきた地域特有の風景を文化的景観と言います。文化的景観は平成 16 年、文化財保護法の改正によって、史跡や名勝などと並ぶ文化財の一つとなりました。とくに重要な景観地は、国の「重要文化的景観」として選定されます。

板倉町は、利根川と渡良瀬川との合流域に形成された低湿地（水場）が広がっています。そのため古くからオオミズが多い地域で、水の恩恵を受けて豊かな土壌・生態系がはぐくまれてきました。一方自然堤防上に造られた沼除堤や水防建築「水塚」、低地農法としての「川田」、薪をとるための「柳山」など水と共生するためのさまざまな知恵や工夫が今も生きています。そして「水場の一寸高」という考え方が、居住地や農耕地などにも見られる景観が、極めて価値の高い文化的景観として評価されました。

見慣れた風景ですが、先人たちが築いてきた魅力ある風景です。
選定区域の重要な構成要素を、自転車で巡るコースを設定してみました。
ご自由に巡って、水場の風景を味わってください

西岡の渡跡　舟小屋

3 石碑（決壊口跡）昭和22年のカスリーン台風で決壊

（萩）

（雷電神社木版画）

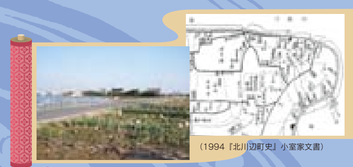
7 雷電神社（総本宮）

信仰圏は関東一円、とくに利根川中～上流域に多く広がっています。沼にせり出した半島状の部分に造られましたが、今は廻りすべて埋め立てられてしまいました。

板倉沼跡

「菜の花を咲かそう」という板倉町民の願いは、今や大穀倉地帯となっています。

（1901『上野名蹟図誌』）



（1994『北川辺町史』小室家文書）

20 天保の締め切り跡

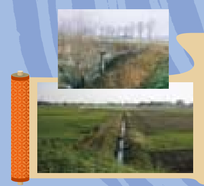
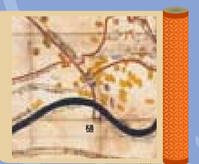
天保12年に利根川東遷事業によって締め切られますが、それ以前より本川ではなくなっていたようです。利根川流域で、締め切り跡や水路が残るのは、本地域のみで、とても貴重な国土遺産です。

利根川
（右）桑畑と高瀬舟（明治時代）
（左）現在の利根川の河川敷

古利根川（水路）

利根川が流れていました。「あいの川」と呼ばれ「間ノ川」「合の川」などと書きます。現在は「フルトネガワ」と呼ばれています。今も水路が群馬県（上野国）と埼玉県（武蔵国）との境界です。

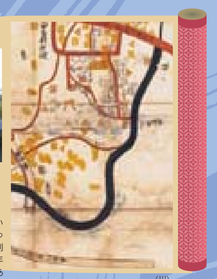
（1702『元禄上野国図絵図』群馬県立文書館蔵）

樋　（川）

36 37 北根用水路と樋門

五箇谷たんぼと言われ、昭和40年代後半まで溜田でしたが、用水堀は江戸時代からほとんど変わっていません。台風時などに、樋門は閉じられます。



（川）

41 高鳥集落（村）の西側の囲堤と土橋

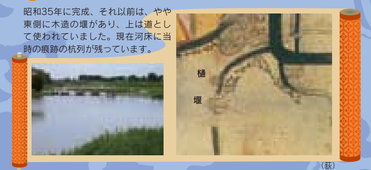
小林家文書に鴻巣（現在の県道付近）まで囲堤があったことが記されています。また絵図によっても確認でき、昭和50年代前半まで堤の形状が残っていたと言われています。なおこの地域は、本堤～谷田川右岸堤～古利根川堤～利根川左岸堤で囲まれており、文禄堤とほぼ同時期（約400年前）に造られたと考えられます。土橋だった部分では近年まで水争いがありました。

53 小保呂樋管（門）

明治43年のオオミズ後に行われた改修工事「明治四十四年五月二日伏込」「悪水吐樋管」「伊奈民村　西谷田村組合」と書かれています。

35 八間樋堰（八間樋頭首工）

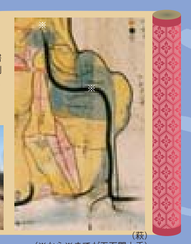
昭和35年に完成、それ以前は、やや東側に木造の堰があり、上は道として使われていました。現在河床に当時の痕跡の杭列が残っています。



樋　堰　（萩）

51 五百間土手（堤）

ゴルフ場北東側の堤を指します。古文書によく出てくる名前です。写真は北側（国道354号線側）より撮影しています。



（萩）
（※から※までが五百間土手）

古堤跡　（萩）

（1876『地引絵図』群馬県立文書館蔵）

54 小保呂引堤（北側より撮影）

引堤工事が天保10(1839)年に行われたと荻野・松本家文書に書かれています。地引絵図では、「古堤跡」と記されています。

風景は、みずばの絵巻物

いま見えている風景は、いつも見ている見慣れた風景です。
しかしその風景の裏には、いろいろな秘密が見え隠れしています。
絵巻物を紐とくように、ひとつ前の風景、
さらにもうひとつ前の風景がみえてきます。

板倉町教育委員会2009『みずば絵巻』

（萩）荻野家文書　延享2年（1745）「板倉村古絵図」
（川）川嶋家文書
※番号は地図と一致しています。

さわやかコース

1 東部第一排水機場

初代は昭和 9 年 (1934) 完成しましたが、カスリーン台風時 (昭和 22 年) 壊滅しています。第 2 代は昭和 39 年 (1964)、第 3 代は平成 18 年 (2006) より稼働しています。板倉町を穀倉地帯とした重要な機械排水施設の一つです。

2 海老瀬排水樋管

仲伊谷田承水溝の排水樋門です。

3 決壊口跡

昭和 22 年 (1947)、カスリーン台風時に決壊した場所に建っています。9 月 15 日午後 11 時 50 分に決壊しています。
平成 21 年まで堤内地にありましたが、現在は堤防上に建っています。

4 錄事尊

石塔は明治 31 年 (1898) の決壊により流されましたが、堤防改修工事の際に基台のみ発見されたものです。昭和 33 年 2 月 20 日に建て直されました。仏教の影響を受けた水を司る錄事尊信仰によるものです。

5 頭沼揚水機場

渡良瀬川唯一の揚水機場で、昭和 39 年度に設置されました。

6 旧渡良瀬川堤防

板倉町の東縁を南下していた渡良瀬川は、渡良瀬遊水地計画に伴い、藤岡台地を開削し、現在のような流路となりました。現在は、旧堤防と水路 (廃川堀) が残り、栃木県境となっています。

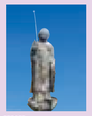
どきどきコース

7 雷電神社

雷電を祀る水神信仰の神社です。信仰域は関東一円に及び、総本宮となります。本社・奥宮・末社からなります。木社 (八幡宮稲荷神社) は国指定重要文化財で群馬県における最古の木造建造物です。本社と奥宮は群馬県指定重要文化財です。

8 道しるべ（らいでんみち）

古河往還 (現国道旧 354 号線) からの参道入口に立っていたものを現在地に移動しました。
「是よりらいでんみち　文化 11 年甲戌 3 月吉日 上州邑楽郡當所大同村中」と刻まれています。



9 水神塔・延命地蔵尊

延命地蔵尊
享保 4 年 (1719) 建立しています。「イボジゾウ」と呼ばれています。地蔵尊の廻りを 3 回まわるとイボが治ったということから、イボが治ると植物のヨシにだんごを 3 つさしてお礼します。
水神塔・道標
安永 9 年 (1780) に建立しています。オオミズの時、すぐ西側の土手が切れたことに由来し、道標を兼ねています。「北いわふねみち 西たてはやしみち」と刻まれています。

10 キリゴミ（蛭田沼）

沼の面積は 9,341 ㎡です。冬場にヤナギなどの魚染を積み重ねて魚を捕る漁法です。周囲にサシ網を張り、魚染を取り除き、魚を追い込み、ハズ押し等で捕ります。

11 松之木樋門

谷田川との重要な用排水施設です。

12 飯野車口樋門

谷田川との重要な用排水施設です。

13 谷田川排水機場

谷田川と利根川の合流地点にあり、工事は昭和 46 年～ 49 年度に行われました。

14 谷田川第二排水機場

邑楽水害予防組合が昭和 24 年に内水排除を目的として、鶴生田川と利根川の合流地点に建設しました。管理は、昭和 52 年に併設した谷田川排水機場の完成に伴い、群馬県より建設省に移管されています。

15 水天宮・風天宮

長良神社にありましたが、平成 4 年に移設しました。元来利根川の土手上にあって明治 43 年の決壊時にはこの水神様の西方 100 m のところで止まったと伝えられています。

16 大杉大明神

水神の鎮魂そして、風水害除けです。長良神社境内にあります。町内にある大杉神社 6 の内の一つです。「大杉大明神　大天狗 小天狗 上州邑楽郡飯野村 文化四丁卯年八月吉日」の銘があります。

17 飯野河岸銘庚申塔

天保 15 年 (1844) 建立しています。江戸時代の水運の隆盛を伝える石造物です。庚申塔です が左側に「飯野河岸」、基台に河岸の家々が順に刻まれています。(長養寺境内)

18 坂東樋管跡

樋管は、昭和 31 年 (1956) に建設省が建設しましたが、その後、上流に利根大堰が建設され邑楽用水が整備されたため昭和 44 年度撤去しました。樋管が通っていた証です。

19 水神宮・風神宮

「水神宮 風神宮 文化八丁未九月吉日 篤村講中」と銘があります。駒型石碑です。雷様境内にあります。

20 天保の締め切り跡

利根川の東遷事業等によって、天保 12 年頃に締め切られた堤です。利根川流域で、瀬替え時の堤が残っているのはここだけでとても貴重です。埼玉県 (旧北川辺町) とを繋ぐ重要な道路です。

21 水神宮

この地に建立されていました水神塔が、明治 43 年 (1910) に、流失してしまいました。そこで昭和 33 年 (1958) に内務省がサクラの樹木を植えた際に、新たに建立したものです。下五箇字川入 9 戸の方々で守っています。

22 水塚（小暮家）

オオミズ時の避難小屋です。木造 2 階建て (3.5 間 × 2 間)、味噌部屋 (2 間 × 1 間) が付いています。

※個人の建物です。勝手に入るのは遠慮しましょう。

23 水塚（新井家）

オオミズ時の避難小屋です。木造 2 階建て (3 間 × 2 間)、味噌部屋 (1 間 × 2 間) が付き、下屋庇は 4 間 × 0.6 間です。

24 小左ェ門樋門

「樋ノ口」という字名の由来となっています。古来より北川辺地域を結ぶ唯一の樋門です。

25 水塚（吉田家）

オオミズ時の避難小屋です。木造 1 階建て (2 間 × 1.5 間) です。昭和 18 年頃建築しその後改修しています。

※個人の建物です。
勝手に入るのは遠慮しましょう。

26 大箇野サイフォン取水口

大正 15 年～昭和 9 年に造られ、昭和 33 年に改修しています。大箇野排水路が谷田川の河床より低いために、自然に流入できずに、暗渠排水しています。南西側に広がる五箇谷田んぼにとって重要な排水施設です。

27 北坪東橋

橋長が 20.5 m、車道 1.5 m の木橋です。欄干がないので、水の抵抗が少ない構造となっています。現在は谷田川の本流が左岸側となっていますので、これに潜ることはなくなっています。『群馬県邑楽郡町村誌材料』(明治 22 年) によると、明治 13 年了月造られています。

28 通り前橋

橋長が 27.1 m、車道 1.5 m の木橋です・欄干がないので、谷田川の水位が上昇した場合にも水の抵抗が少なく、水に潜ってしまいます。地元では「モグリバシ」「イッポンバシ」などと言われています。北坪東橋と同時期に造られたと考えられます。

29 大箇野サイフォン出水口

大正 15 年～昭和 9 年に造られ、昭和 33 年に改修しています。大箇野排水路が谷田川の河床より低いために、自然に流入できずに、暗渠排水しています。

お好きにみやっせコース

30 東部第二排水機場

初代は昭和 9 年 (1934)、第 2 代は昭和 43 年 (1968)、第 3 代は平成 18 年 (2006) に造られ、稼働しています。

31 大箇野排水機場

昭和 29 年 (1954) に造られた大箇野排水路の排水機です。現在は樋管もはずし、建物と内部のポンプ等が残っているのみです。町の利根川流域を穀倉地帯とした重要な施設でしたが、現在は東部第二排水機場に委ねています。

32 谷田川第一排水機場

昭和 20 年～ 23 年度に、邑楽水害予防組合が谷田川の内水排除を目的として設置しました。
平成 23 年 6 月新機場の稼働に伴い（左側）、古機場（右側）は取り壊されています。

33 (石造物)阿弥陀如来坐像

地蔵尊、阿弥陀如来座像は寛文 11 年 (1671) に建てられています。ここには「間ノ川渡」がありましたが、「ジゾウノワタシ」と呼ばれていました

34 勝軍地蔵

町指定重要文化財、半肉彫の勝軍地蔵尊です。元禄 12 年 (1699) の建立です。昭和 27 年 (1952) 堤を高くする際に、谷田川の河川敷から墓地とともに移転しました。

35 八間樋頭首工

初代は昭和 9 年 (1934) に完成しましたが、カスリーン台風時 (昭和 22 年) 、壊滅しています。第 2 代は昭和 39 年 (1964)、第 3 代は平成 18 年 (2006) より稼働しています。延享 2 年 (1745) の絵図に、洗堰と樋門が描かれ、江戸時代から谷田川の重要な治水施設の一つとなっていることがわかっています。

36 北根樋門

「三ヶ村絵図」によって江戸時代からの用水路であり、樋門であることがわかります。

37 北根用水路

利根川・古利根川・谷田川各々の堤に囲まれた低地（五箇谷たんぼ）にとって、谷田川との重要な用排水路です。

38 ヨシ原

付近にあった集落毎の茅場のおもかげを今に残します。毎年シバ焼きをしヨシの管理をしています。

39 肘曲り池

「水生動植物群」が町指定天然記念物です。決壊によってできた堤内地の押掘（オッボリ）です。

40 水神塔・馬頭観音

水神塔
方錐角柱塔「水神塔 明治 29 年 3 月 20 日高鳥耕中」と刻まれています。
馬頭観音
馬捨場・行人塚と言われてきた地にあります。半肉彫馬頭観世音「文化十一戌十二月吉日 高鳥村中」と刻まれています。

41 土橋（囲堤）

土橋だったこの橋では近年まで水争いがありました。堤が南側へ約 50 m 造られ、谷田川を逆流してくる水を除ける役目をしていました。昭和 50 年代前半まで残っていました。古文書等から文禄堤とほぼ同時期 (約 400 年前) に造られたと考えられます。

42 岡樋門

谷田川との重要な用排水施設です。

43 柳山

中州状となったところに川田を造り、その畦にオトコヤナギ（アカメヤナギ雄）を挿し木して薪としました。現在は伐採しないのでヤナギの林となっています。低地における里山です。

44 ヨシ原

湿地性植物がみられます。手前の田は、南側の飯野字侍辺集落の「茅場」でした。

45 念行樋門

谷田川との重要な用排水施設です。

46 川田

低地特有の耕作法で、全国的な絶称は掘上げ田です。以前は東毛地域の池沼等で多くみられました。元来 7 枚ありましたが、現在耕作されているのは 2 枚です。1 枚は西小学校 5 年生の体験学習用に活用しています。

47 花和田樋門

谷田川との重要な用排水施設です。

48 浅間神社

低地のため、高いところである堤防上に造られています。大正 8 年 5 月の建立です。6 月 30 日～ 7 月 1 日に稲荷木集落（北側）の人々によってお祭りが行われます。

49 水天宮・風天宮

赤城神社と呼ばれています。1 月 11 日に、祭り番がフナ 2 匹・葉付大根・人参・赤飯を供えます。稲荷木集落の人々によって守られています。

50 宮の前樋門

谷田川との重要な用排水施設です。

51 五百間 堤

谷田川左岸堤で、古河往還の一部です。江戸時代初期に造られた堤防で、長さはほぼ 500 間となっています。北側部分はやや低くなっており、旧板倉沼へ逆流水を入れ込む越流堤の役目があったと考えられます。

52 小保呂排水機場

昭和 53 年に設置されました。板倉沼の一部を工業団地にする際に、工場排水および小保呂排水路の水を谷田川へ流すためのものです。

53 小保呂樋門

昭和 53 年 (1978) に改修しています。谷田川との重要な用排水施設です。樋門は町の中央に広がる旧板倉沼（現水田）の排水施設で、明治 43 年 (1910) のオオミズによって損壊したため、翌 44 年に改修工事を行っています。

54 引堤

古河往還の一部です。天保 10 年 (1839)、決壊によって引堤と掛渡井の改修工事を行ったことが古文書によってわかります。治水工事の歴史的変遷が辿れる貴重な箇所です。

55 上新田樋門

谷田川から内郷集落の耕作地へ水を入れる重要な用排水施設です。

56 青龍大神

オオミズ時の切れ所跡です。220 日に中新田集落および上新田集落より灯籠を立てて、祭礼を行っています。現在では「青龍大神」(昭和 53 年 11 月建立) ですが、それ以前は「青龍大権現」(明治 3 年 5 月建立) と刻まれていました。

（坂田家）
（針ヶ谷家）

57・58 水塚

オオミズ時の避難小屋です。
57は本造平屋で 3 間 × 2 間です。明治 21 年建立で昭和 25 年頃改修しています。
58は本造 2 階建てで 3.5 間 × 2 間です。
※個人の建物です。勝手に入るのは遠慮しましょう。

59 沼除 堤

造られた時期は、はっきりしませんが、明治 5 年の地引絵図には記されています。板倉沼からのオオミズを避けるために、造られた堤です。標高は 18.1 m を測ります。

60 行人沼

決壊箇所にできた堤内地のオッボリです。杭列は「集落を守った杭」と地元に伝わっています。堤修復時に補強したと考えられます。北側に存在した沼除堤は昭和 30 年代に削平されました。